

門沢橋保育園の 移転計画の経緯は

日本共産党 松本 正幸



問：門沢橋保育園の建て替え移転計画は白紙撤回になり、建て替えを期待していた保護者や関係者を裏切る結果となりました。この移転計画を決定した経緯と今後の建て替え計画について市の考えを伺います。

答（保健福祉部次長）：

門沢橋保育園は昭和47年の建築で、前面道路は当時と比べ交通量も多く、幅員も手狭で、送迎時の安全確保や災害時の避難誘導に課題があるため、園児の安全を最優先とし、併せて小学生との交流が図られる点から建て替え・移転を計画しました。しばらくは、維持修繕で対応し、子ども・子育て関連3法の詳細を見極めて建て替えを再検討する考えです。なお、他自治体では、公立保育園の建替えに伴い、運営主体を民間に移行する事例が増えており、本市でも運営の効率化を図るため、民営化を検討します。



将来の子どもたちのために最善の計画を

草刈り条例の制定を

志政会 氏家 康太



問：第四次総合計画の後期基本計画に、「(仮称)空き地空き家の適正管理に関する条例」を制定するとありますが、市民要望は雑草の草刈りと樹木の伐採剪定にあるため、「草刈り条例」の制定の考えがあるか伺います。また、強制力をもった条文を盛り込むべきと考えますが、見解を伺います。

答（市長）：議員ご提案の「草刈り条例」は、空き地に繁茂する雑草などの放

海老名駅西口に出店する ららぽーとへの要望

市政改革の会 鶴指 眞澄



問：海老名駅西口開発に伴い、「ららぽーと」の出店計画がありますが、出店に際しては、地域と共存・共栄していくことが最も重要だと考えます。そこで、ららぽーとに対し、海老名産の商品や農産物を販売する「地場産コーナー」の設置や、施設内に新店する個別事業者に対し、最低でも1名以上の市民を雇用することを、私は、要望すべきと考えますが、市の見解を伺います。

答（まちづくり部長）：

市としては、ららぽーと内に地場産コーナーを設け地域の特色を活かす工夫も一つの要素として考えられます。



いよいよ本格的に工事着工する西口開発

議会改革スタート！！

市民に、より信頼され開かれた議会を目指すため、議員自ら議会改革について検討をはじめました。
24年11月13日の臨時会で倉橋新議長は就任あいさつの際、本格的に議会改革について着手することを表明し、早速議会運営委員会に諮問されました。
それを受けて、委員会では「海老名市議会議会改革検討会」を発足させ、氏家康太議員を座長、鶴指眞澄議員を副座長に選出し、議会に関するさまざまな側面より検討していくこととなりました。
今後検討状況は本紙やインターネットなどで紹介していきます。

ミストシャワーで 憩いの場を

公明党 福地 茂



問：以前、ミストシャワーを体験しましたが、炎天下からミストシャワー設置場所に入ると、体感温度が全く違い、ホッとする思いがありました。このミストシャワーは、東日本大震災以降注目を浴びています。業務用にとどまらず、節電の観点から、水道水の圧力だけでミストを発生させる安価で簡易的な家庭用も現在では多数販売されています。

答（市長）：ミストシャワーは、最近では、公園をはじめ商店街、学校など人が集まる場所に設置されています。議員ご提案の件については、担当課に設置に向けた検討を指示しました。

少子高齢化対策は

無会派 山口 良樹



問：市の高齢化対策と併せて、子育て政策は、少子化に歯止めをかける一助となったのか、少子高齢化に対する市の取り組み状況を伺います。

答（市長）：少子対策では、当事者の目線で、子どもの成長や子育て支援を第一に考え、個人の希望を普遍にかなえることができるような社会を構築していく

は、当事者の目線で、子どもの成長や子育て支援を第一に考え、個人の希望を普遍にかなえることができるような社会を構築していく

人口増減に伴う 教育環境について

志政会 永井 浩介



問：市でも少子化が進み、今後、学校の統廃合、小・中一貫も視野に入れ研究すべきと考えます。その一方、27年度の海老名駅西口まち開きに伴い3000人の人口増が見込まれ必然的に児童生徒も増加します。文部科学省の算定式を使いシミュレーションしているとは思いますが、現状のハード面・ソフト面では定員超過になることを予想します。地域の受け入れ態勢と、併せていきたいと考えます。

答（市長）：20年後には老朽化に伴い学校は耐用年数を迎えます。児童生徒も減少する中で財政上の問題もあり、建て替えるより新しい施設を作り統廃合する選択肢もあると考えます。海老名駅西口地区開発に関しては、現在、在籍している児童生徒に不安がないよう進めていきたいと考えます。

開かれた議会を目指して

23年11月の市議会議員選挙から1年がたち、先の臨時会にて新体制となりました。今期の大きな任務のひとつに議会改革があります。地方分権改革によって自治体の権限が拡大したことに伴い、ますます大きくなっていきます。市議会は、市民から負託を受けた市長と議員の二元代表制を十分に生かし、開かれた議会を目指すため24年12月、議会内に「議会改革検討会」

海老名市議会 広報委員会から

「議会だより」をお届けできるよう努めます。